

B型肝炎の母子感染を防止するために

日本小児科学会は2013年12月、B型肝炎ウイルス母子感染予防処置の新しい指針を公表しました。新しい指針での、大きな変更点は次の2点です。

- (1) B型肝炎ウイルスワクチン（以下、HBワクチン）を出生直後から接種する
- (2) 生後2ヶ月に投与していた抗HBs人免疫グロブリン（以下、HBグロブリン）注射を省くことができる
- (3) 追記 2014年3月、低出生体重児に対する対応策を追加

母親と、生まれてくる子どもについての検査・予防措置スケジュール

時期・内容	予定日	実施日	結果
妊娠中 ⁽¹⁾ お母さんのB型肝炎ウイルス検査（HBs抗原） お母さんのB型肝炎ウイルス検査（HBe抗原）	月 日頃	月 日	HBs抗原（ ） HBe抗原（ ）
出生直後 ⁽²⁾ HBグロブリン筋注 HBワクチン1回目	月 日頃	月 日	
生後1ヶ月 HBワクチン2回目	月 日頃	月 日	
生後6ヶ月 HBワクチン3回目	月 日頃	月 日	
生後6～12ヶ月 赤ちゃんのB型肝炎ウイルス検査（HBs抗原） 赤ちゃんのB型肝炎ウイルス検査（HBs抗体）	月 日頃	月 日	HBs抗原（ ） HBs抗体（ ）

- (1) 出産予定日を目安として受けるようにしますが、かかりつけ産婦人科の指示を優先して下さい。
- (2) 12時間以内が望ましいが、もし遅くなった場合も生後できる限り早期に行う

予防措置終了後の評価について

生後6～12ヶ月に行う、赤ちゃんのB型肝炎ウイルス検査の結果に応じて、次のように対処します。

- (1) HBs抗原陰性 かつ HBs抗体 ≥ 10 mIU/ml・・・追加接種は終了（予防成功と判断）
- (2) HBs抗原陰性 かつ HBs抗体 < 10 mIU/ml・・・HBワクチン追加接種
- (3) HBs抗原陽性・・・専門医療機関へ紹介（B型肝炎ウイルス感染について精査）